

2008年9月1日

G8下院議長会議（9月2日、広島）参加議長各位

日本国衆議院議長 河野洋平 様 気付

ファックス: 81-3-3597-9887

日本国衆議院議長 河野洋平 殿

米国下院議長 ナンシー・ペロシー 殿

イタリア下院議長 ジャンフランコ・フィーニ 殿

英国下院議長 マイケル・マーティン 殿

ドイツ連邦議会議長 ノルベルト・ラマート 殿

ロシア国家院議長 ボリス・グリュズロフ 殿

カナダ連邦下院議長 ピーター・ミリケン 殿

フランス国民議会議長 ベルナール・アコワイエ 殿

第二次世界大戦の終結から63年目の今年、広島の地で、平和や軍縮、そして核不拡散の強化における議会の役割という極めて重要な問題を議論すべく、皆様方がお集まりになられますことを心よりお慶び申し上げます。

広島と長崎で使用された核兵器（今日の保有核兵器全体に照らせば、そのごくわずかの爆発力に過ぎません）がもたらした惨禍は、核兵器は二度と使われてはならないという責務を私たち皆に思い起こさせます。

核不拡散条約（NPT）は疲弊しており、何としても維持・強化されなければなりません。そのためには、拡散を防止しつつ核軍縮を達成するという非差別的な措置の履行を進めていくことが必要です。そのような前進なくては、私たちは更なる拡散と、事故、計算違いや設計による核の大惨事という二重の脅威に直面せざるを得ません。

元米国高官であるヘンリー・キッシンジャー、ジョージ・シュルツ、サム・ナン、そしてウィリアム・ペリーは、最近において、「冷戦時代においては、核兵器は抑止の手段として、国際安全保障の維持に不可欠なものであったが、このような目的のために核兵器に依存することはますます危険になっており、その有効性は低減する一方である」という見解を表明し、「核兵器のない世界というビジョン、ならびにそのような目標の達成に向かう実際的な措置」の必要性を強く訴えました。

私たちは、このようなビジョンを促進し、核兵器のない世界の実現へと繋がる措置を履行していくにあたって、皆様方がG8各国の議会で主導的立場に立ってくださることを奨励します。21世紀における技術・政治・制度的な発展は、核軍縮という理想を現実的な目標へと変えていきました。しかし、これを現実のものとするためには、リーダーシップと行動が必要なのです。

世界各国の国会議員による超党派ネットワークである核軍縮・不拡散議員連盟は、確かな成功に向け、皆様とともに努力していく所存です。

PNND共同代表

マリアン・ホップス、 アレクサ・マクドナー、 ウタ・ツァプフ、 アバカ・アンジャン マディソン